

エッセイ
本をめぐる 3 つの謎

坪内浩教授
(アメリカ経済論)

家の中は本であふれています。部屋は 3 つあるのですが、そのうちの一部屋半が占拠されています。

本を最もよく読んだのは高校生から大学生にかけての時期。通学時間が長く、電車に揺られている間は読書くらいしかすることがありませんでした。当時よく読んでいたのは小説です。新聞に、太宰治の娘で作家の津島佑子等の「若いときに読んでおく本」という特集があって、そこで紹介されていた本を片っ端から読んでいました。聞いたことのないタイトルばかりでとても新鮮でした。日本の作家では、大江健三郎『万延元年のフットボール』、小島信夫『抱擁家族』、小林恭二『ゼウスガーデン衰亡史』、筒井康隆『脱走と追跡のサンバ』、山尾悠子『夢の棲む街』、外国の作家では、アーサー・C・クラーク『幼年期の終わり』、ゴールドディング『蠅の王』、レイ・ブラッドベリ『火星年代記』、『10 月はたそがれの国』、マッカーズ『心は孤独な狩人』など。それぞれ独特な「世界観」をもっていて、読んでいる間は現実を忘れて別の時間を生きさせてくれるようなものが多かったように思います。それらは今でも本棚を飾っています、というか、今の家に引っ越して来てから 16 年間段ボールの中で眠ったままになっています。ここで謎の 1。引っ越す前にはきちんと本棚に収まっていた本が、引っ越すと本棚に収まらなくなるのはなぜなのでしょう？

村上春樹の短編の中に『プールサイド』という小説があります。人生の折り返し地点を過ぎていることを自覚せずに生きている人が多い中で、それを自覚して生きる「ちょっと風変わりな」主人公についての物語です。確かに、人生は思いのほか短く膨大な本を読み返す機会はずまいと思われまふ。であれば、必要な本は図書館で借りて読めばいいのに、なぜ自宅に置いておくのでしょうか？これが謎の 2 です。

在米日本大使館に勤めていた時の同僚で、一念発起して蔵書を整理した人がいました。とても合理的な仕事をする人なのですが、帰国の際、それまで使っていた家電製品や生活用品を必要な人に安く譲る「ガレージセール」で、彼は蔵書をただ同然で処分していました。私にはとても真似できません。

理由はいろいろあります。以前に読んだ本の内容を確認したい衝動に駆られることが時々あるのです。地元の公立図書館では蔵書が貧弱ですし、ちょっと確認するだけのためにわざわざ中央図書館に出かけるのは面倒です。自宅であればすぐに確認することができます。外付けのハードディスクのようなイメー

ジですね。この文章もそうして確認しながら書いています。

ただ、最近では、読後に「これは再読したくなりそうな本かどうか」を考え、そうでないと思ったら捨てるようにしています。就職してからは通勤時間が短くなり、その短くなった通勤時間の間も最近ではスマートフォンを眺めることが多くなりました。また小説を購入することが少なくなり、読んでも半数は捨ててしまうので、小説は溜まりにくくなりました。

就職してから増えたのは専門書です。特に、以前他大学の教員をしていた時には研究室に本棚がたくさんあったのでかなり買い込みました。これらも大学から元の職場に戻るときに自宅に送り、そのまま段ボールの中で眠っています。現在の研究室では蔵書を増やさないようにしようと心に誓っています。

最近、電子書籍が流行ってきています。スペースをとらない点ではいいと思うのですが、紙の本を読むのと同じか、それ以上の体験をすることができるのでしょうか？これが 3 番目の謎です。

私自身はどうしても紙の本から離れられないでいます。音楽の世界では既に CD からダウンロードやストリーミングに聴き方が変わってしまったように、本の世界でもそのような時が近づいているのでしょうか？

最後に、一冊だけ本をお勧めしたいと思います。塩野七生『海の都の物語』です。この本はベニス（ヴェネツィア）の繁栄の秘密について書かれた本です。ベニスはイタリア半島の根元のアドリア海に面した干潟に浮かぶこぢんまりとした島なのですが、800 年にフランク王国の攻撃を退けてから 1797 年にナポレオンに滅ぼされるまで約 1000 年にわたって繁栄し続けました。日本でいえば平安時代から江戸時代の半ばくらいまでのとても長い時間です。小さな島なので大した産業はなく、交易で繁栄しました。王様をもつこともなく、共和制を敷いて貴族と一般の人々が力を合わせ繁栄し続けたのです。

日本はそれよりは大きい島国だとは言っても大した資源はなく、豊富なのは人くらい。その観点から、ベニスが 1000 年も繁栄を続けることができた秘密を知ることが日本にとってとても参考になると思います。日本は開国してからまだ 150 年くらいしか経っていません。これから数百年の繁栄を続けるにはどうしたらよいか、この本の中にヒントが隠されていると思います。